



大森二中だより

令和3年度 大森二中の合言葉「思いやり」
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

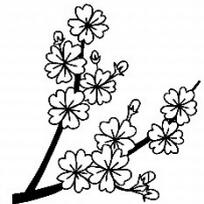
令和3年度
3学期始業式号
大森第二中学校
校長 成清敏治
電話 3762-6456

植物にも「生き方」がある！

さて、話は変わりますが、生存競争を勝ち抜くために、日々努力をしているのが実は植物です。冬休みに『植物のすさまじい生存競争』という本を読みました。植物にも「生き方」があると知って、少し衝撃を受けましたので、皆さんに紹介をしたいと思います。

まず、食べ物の確保ですが、これは理科で習ったはずですが、根から吸った水と葉っぱから吸収した二酸化炭素を材料に、太陽の光を利用してブドウ糖とデンプンを自ら作ります。このことを光合成と呼びます。この反応によって、植物は動かずに食べ物を確保しています。次に自分たちの種を残すため、花の香りや色、蜜を用いて、ハチやチョウなどを引き寄せ、花粉を運んでもらいます。これで動かなくとも種を残しています。植物が花を咲かせた姿は、自分の魅力をアピールしている姿といえます。

さらに厳しい自然条件を乗り越えることについては、植物は何かしらの仕組みを備えています。秋に花が咲くコスモスやキクは、寒い冬をタネで過ごします。硬いタネであれば冬を乗り切れるわけです。では冬の到来をどのようにして察知しているかということ、葉っぱで夜の長さを計っているのです。では、冬にタネになっていない植物はというと、寒さに耐える仕組みとして、夏から冬にかけて葉っぱの中に糖分を蓄え、凍る温度を下げることによって、自らが凍らないようにしています。代表的な例でサクラを紹介します。サクラは樹木が冬を越える際の仕組みに、越冬芽（えっとうが）と呼ばれる硬い芽があります。サクラは春に花が散り、夏から秋にかけて蕾を作って、秋に越冬芽で蕾を包み込みます。この越冬芽は、冬の寒さを通さなければ花を咲かせない性質をもっています。サクラは1年間の努力の末に、きれいな花を咲かせているのです。



これらを通して、皆さんも改めて植物を大事にしてほしいことと、厳しい状況を乗り越えることで花が咲くということを知ってもらいたいと思います。植物もいろんな変化に対応しながら、自分で自給自足したり、他の力を借りて種を増やしたり、自分で自分の身を守る自己防衛という仕組みをもっています。ぜひ、大森二中の生徒皆さんは、自立をめざし、他者と共生し、自助の精神でたくましく人生を生きてください。植物の知恵に学んで、自分の生き方を振り返る、そんな心の余裕をもってください。（1月11日 始業式）

保護者の皆さま

2022年も幕が開けました。本年も教育活動へのご理解、何とぞよろしくお願いいたします。学校行事の変更のお知らせです。

1年生は年度当初、2月4日を社会科見学としていしましたが、移動教室が同日に入ったため、今年度の社会科見学はありません。

同じく、3年生は年度当初、3月11日を卒業遠足としていしましたが、修学旅行が同日に入ったため、今年度の卒業遠足はありません。